



# かわしま

mail:y3kawash@edu.city.yokohama.jp

http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/kawashima/

学校だより 2月号  
平成 23 年 1 月 31 日  
横浜市立川島小学校  
校長 小池 慎一  
TEL 3 7 1-0 7 5 7  
FAX 3 8 1-7 2 4 8

## 雪の結晶

学校長 小池 慎一

耳を澄ますと、春の足音が聞こえてきそうな穏やかな日々が続いています。

3日は節分、そして4日が立春です。

2月といえば、私が子どもの頃は、雪のたくさん降る年もありました。そんな冬のある日、とても寒い日でした。空は朝から曇り灰色の暗い日でした。ふと気がつく顔に冷たい水滴がぶつかってきます。空を見上げると、白い粉のようなものがひらひらと舞うように踊っているのです。空の方を見上げて、口をあけると、口の中に入ってきて、ほんの少しの間ちょっとだけ冷たいような感覚になるのです。



毛糸の手袋をしていた私は、その白いものを、そっと指先にのせようと思いました。初めてのうちはなかなかうまくいかなかったのですが、何度か繰り返すうちにやっと一粒の白い粉を手袋の指先につかまえました。

じっと見ると、そこには図鑑で見たのと同じ形をした雪の結晶がありました。それは、図鑑で見たのよりもずっと小さかったのですが、図鑑で見たのよりもずっと美しい形をしているように思えました。あまりに美しく感じたその透き通った白い雪の結晶を、ずっと見ていたいと思ったのですが、すぐに融けて水の粒になってしまいました。

またつかまえたいと思い、何度も手袋を差し出したのですが、うまくつかまえることができませんでした。

1月に体育館で開催した書き初め展で、子どもたち一人ひとりの作品を見ていて、書き初めの文字に込められた子どもたちの思いを感じていましたら、ふと、子どもの頃のこんなできごとを思い出してしまいました。

子どもたちの作品が、一人ひとりの思いの結晶のような気がしたからかもしれません。



体育館を出て、校庭の方に目をやると、雪の結晶が日の光を浴びてキラリと光るように、校庭で楽しそうに遊んでいる子どもたちの姿がキラリ輝いて見えました。この子どもたちがもともと輝けるようにしていきたい、そんな思いをもちました。